

予報期間 10月8日から10月14日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- ・ 台風第27号と台風第28号と台風第29号については最新の台風予報を参照。
- ・ 10日から11日にかけて、高気圧が日本の東から日本のはるか東へ移動する。
- ・ 11日から13日にかけて、次の高気圧が日本付近を通して日本のはるか東へ移動する。
- ・ 12日から14日にかけて、低気圧がアムール川中流付近からオホーツク海に進み、低気圧からのびる寒冷前線が北日本付近を通過する。

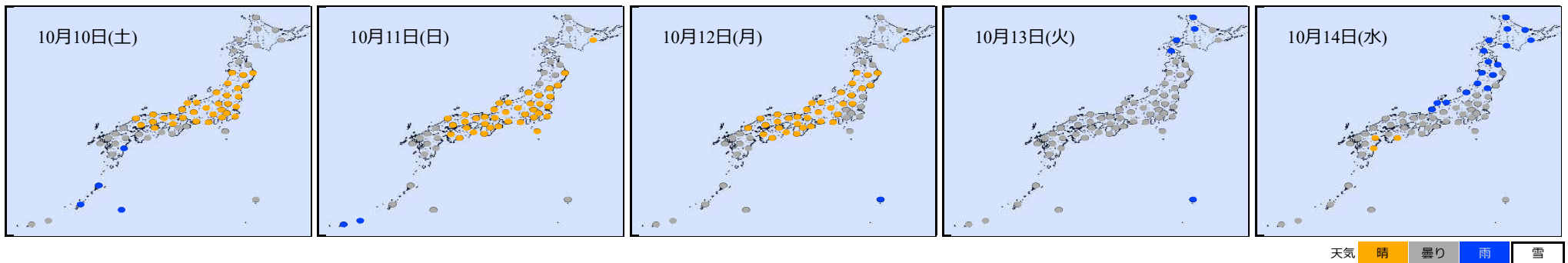
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- ・ 11日から12日頃は、台風第29号の影響で、小笠原諸島ではうねりを伴って波が高くなり、台風の進路等によっては大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

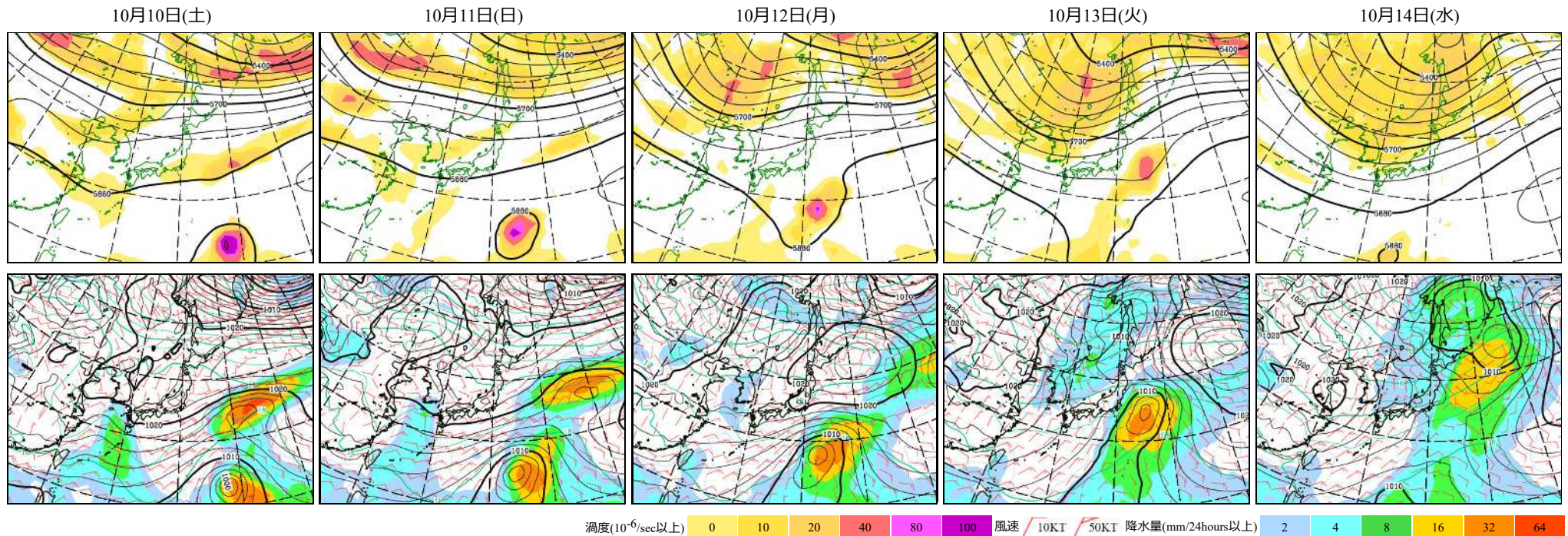
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

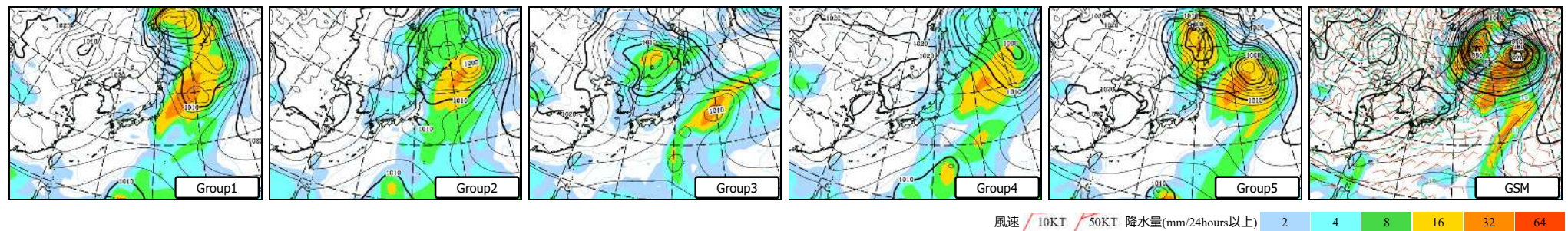


- ・ 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、13日と14日は雨の降る所がある。
- ・ 東日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、14日は雨の降る所がある。
- ・ 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、10日は雨の降る所がある。
- ・ 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、10日と11日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、850hPa気温、前24時間降水量(21時)



◆10月14日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSM予想図 海面気圧、地上風及び850hPa気温(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- ・最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間の前半は本州付近の気圧が高くなり、日本の東へ移動する高気圧の勢力が強まった。期間の終わり頃は、オホーツク海へ進む低気圧の動きは遅くなり勢力が強まった。
- ・スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- ・予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。